

JIU JITSU TODAY

VOL.
06

2023 WINTER

【ジウジツトゥデイ】



ASIAN OPEN JIU JITSU CHAMPIONSHIP 2023

大会レポート

WEST JAPAN / MARIANAS PRO MANILA
TOKYO OPEN / MARIANAS OPEN
DUMAU INTERNATIONAL
ART PHILIPPINE.2 / KITA KANTO OPEN
KANTO OPEN / SOUTH JAPAN
WEST JAPAN OPEN

Interview

アジアオープン柔術チャンピオンシップ優勝・
ART.5出場

生田 誠

スポーツナビ



すべての スポーツに エールを

スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。



くじを買うはエールになる

スポーツくじ



JIU JITSU TODAY 06 発刊

Greeting



2023年も残りわずかとなりました。今年下半期の活動では、当連盟が主催する大会の中で最大規模となるASIAN OPENにはアジアだけでなく、世界各国から多くの参加者が集まり、大会を成功させることができたことは大きな成果となりました。そしてフィリピンでは2度目の開催となったプロ大会「ART PHILIPPINE.2」も好評で今後も定期的に行われることも決まりました。国内においても来年は新たにAsia Jiu Jitsu Cupを開催し、参加者の皆様に満足していただけるような大会運営を心がけ、当連盟としてさらなる飛躍の一年にする所存です。



アジアスポーツ柔術連盟会長
籠原エチソン

SJJIF ORGANIZATION CHART

SJJIFは“柔術をオリンピック競技に！”をスローガンに掲げて、世界各地で柔術の競技大会の開催や普及活動に取り組んでいます。

SJJIF(スポーツ柔術国際連盟)の組織図



ス ポーツ柔術国際連盟は2013年にアメリカを拠点として設立され、柔術の普及とオリンピック種目への採用を目指しています。

これらを実現するため、SJJIFは各大陸に連盟を設けており、ASJJFは、アジア各国における啓蒙活動と柔術大会の運営、プロモーションを担っている

団体です。

SJJJFは国別連盟にあたり、ASJJFの統括の下に日本での大会運営などを中心に活動を広げています。

ASJJF & SJJJF 大会レポート

Report

今号では日本で行われたASIAN OPENをはじめ、
MARIANAS OPENなどの海外で行われた試合も徹底レポート！
国内外で死闘を繰り広げたトップ柔術家の勇姿をとくとご覧あれ！



ブレ柔術甲子園
WEST JAPAN
MARIANAS PRO MANILA
ASIAN OPEN

TOKYO OPEN
MARIANAS OPEN
DUMAU INTERNATIONAL
ART PHILIPPINE.2

KITA KANTO OPEN
KANTO OPEN
SOUTH JAPAN
WEST JAPAN OPEN

プレ柔術甲子園 2023

DATE:2023年7月15日(土)

VENUE:墨田区総合体育館

「柔術甲子園」は高校生を対象とした大会で、この「プレ柔術甲子園」は小・中学生を対象とした大会で、両大会ともに武道具メーカー・イサミの後援で華々しく開催されている。



はるばる九州から遠征して参戦してきたCARPE DIEM KURUMEの緒方三姉妹は全員優勝の快挙。三女・安利はユース灰帯ライトフェザー、次女・朱里はプレティーン灰帯ライト、長女・愛梨はジュニアティーン黄帯フェザーでそれぞれ優勝。特に愛梨は高本珠緒を破っての優勝というのは快挙といっていだらう。



キッズ女子も男子に負けない活躍ぶり

日本の柔術シーンの将来を担うキッズたちは元気いっぱい



女子キッズの常連選手の諏訪遊希(X-TREME EBINA)はプレティーン黄帯フェザーのワンマッチ決勝戦で勝利して優勝。最近では柔術だけでなくレスリングでも活躍している。



女子カテゴリーに相手不在で男子との試合に挑んだ高橋新奈(Axis)だったがスリーブ&パスを決めてジュニアティーン橙帯ライトフェザーのワンマッチ決勝戦で優勝。



いま最も勢いのあるキッズといえばカーロストヨタBJJのクリスチャン・マツオとエンゾ・イマザトの2人で間違いがない。クリスチャンはティーン橙帯ミドルで、エンゾはティーン橙帯フェザーでそれぞれ優勝して金メダル獲得。



大会で連戦連勝の快進撃を続ける岩澤新(CARPE DIEM MITA)は極めが強いのも魅力。今大会でも一本勝ちの連続でジュニアティーン黄帯フェザーで優勝を果たす。

パラエストラ岐阜を代表する強豪姉妹である吉永姉妹の妹・さくらも大会で負け知らず、パワフルなトップゲームを見せてティーン橙帯ミディアムヘビーのワンマッチ決勝戦を制した。



キッズカテゴリーきっての激戦区だったユース灰帯フェザーで優勝したのは青柳潤(パラエストラ小岩)。9人トーナメントで最多となる4試合を勝ち抜いての優勝は立派な戦績だ。

兄妹で柔術をやっている吉村兄弟の兄・草太(X-TREME EBINA)はティーン黄帯ライトフェザーのワンマッチ決勝戦で優勝。三角絞めを極めかけるなどして勝利を手にした。

高校生を対象とした柔術甲子園、小・中学生を対象としたプレ柔術甲子園は武道具メーカー・イサミの後援で開催され、開会式ではイサミ代表取締役の磯毅寛氏が挨拶した。

WEST JAPAN 2023

DATE:2023年7月30日(日)

VENUE:吹田武道館

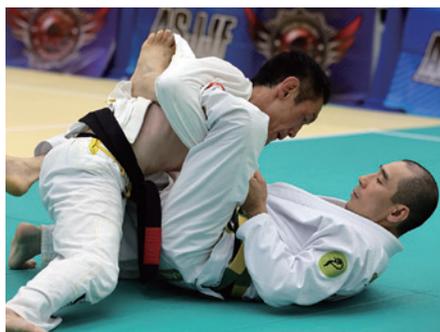
ASJFFの主催大会の中でも数多くの参加者を集めているのが関西地区で開催されている今大会だ。4面開催で500人を超える選手たちが激しい戦いを繰り広げ大いに盛り上がった。



アダルト黒帯でWゴールドだったマテウス・ヒロトミ(Impacto BJJ)はノーギでもWゴールドでクアダブル・ゴールド=4つの金メダル獲得で大会MVP的な活躍。



吉岡崇人(徳島柔術)と柴田宏太(Impacto BJJ)のアダルト黒帯ライトフェザーのワンマッチ決勝戦はベテランの吉岡が柴田を寄せ付けずに手堅く勝利。



マスター4黒帯ライトフェザーの決勝戦はサドンドレスに突入する大混戦に。結果は稲毛雄一(西神BJJ)がカロス・キハラ(Impacto BJJ)から辛勝となった。

今大会のベストマッチはジュブナイル青帯 関西勢同士の対戦も好勝負多し



キッズカテゴリーでアップセットを起こした須田雄律 (SCORPION GYM) 。ティーン橙帯フェザー決勝戦でエンゾ・イマザト (カーロストヨタ BJJ) に電光石火の三角絞めを極めてタップを奪った。



今大会のベストマッチはジュブナイル青帯フェザー決勝戦の井田徠 (Impacto BJJ) と佐野カイラ (AXIS) だ。試合は井田が蹴り勝って優勝し、敗れた佐野はオープンで優勝し屈辱を晴らす。



クリスチャン・マツオの父であるホベルト・マツオ (カーロストヨタ BJJ) がマスター2紫帯ルースターのワンマッチ決勝戦で佐藤功清 (リフレクション BJJ) から絞めで一本勝ちしている。



アダルト茶帯オープンクラスは竹下竜太 (グレイシーバハジャパン) とグレゴリー・タナカ (Impacto BJJ) のワンマッチ決勝戦。試合は体格で勝る竹下が圧殺勝利。



アダルト茶帯フェザーもワンマッチ決勝戦。田邊大輝 (ねわざワールド) がグレゴリー・タナカ (Impacto BJJ) に勝利して優勝。茶帯1年目のグレゴリー、今大会では結果を残せずに終わる。



地元勢同士の対戦となった女子アダルト青帯フェザーのワンマッチ決勝戦は吉岡愛里 (西神 BJJ) が徳山歩 (グレイシーバハジャパン) から腕十字を極めて一本勝ちで優勝。

MARIANAS PRO MANILA 2023

DATE:2023年8月5日(土)

VENUE:アラバンフェスティバルモール

今大会はフィリピンのマニラで開催された「マリアナスオープン」の予選大会。ここで優勝した選手たちに Guam で開催されるマリアナス本戦出場のトラベルパックが贈呈された。

フィリピンで初めて開催されたマリアナス予選 黒帯で優勝したのはエリック・メネギンだ



黒帯デビューの大会でアダルト黒帯フェザー & オープンクラスのWゴールドを達成したエリック・メネギン(IGLOO)がマリアナスオープンのトラベルパック獲得。決勝戦はチームメイトのマイケ・オオウラとクロスアウトした。

Eric Meneghin (IGLOO), who achieved W gold in Adult Black Belt Feather and Open class in his debut black belt tournament, has won a travel pack for the Marianas Open. The final match was a closeout with teammate Myke Ohura.



黒帯昇格して初めて挑んだ今大会でも得意技の三角絞めが冴え渡っていたエリック・メネギン(IGLOO)。フェザー決勝戦はEFセビーリャ(チェックマット・フィリピン)も三角絞めで極めて優勝。

Eric Meneghin (IGLOO) showed off his signature technique triangle choke, in this tournament, which was his first since being promoted to black belt. In the feather final, EF Sevilla (Checkmat Philippines) also won with a triangle choke.



韓国から参戦のチョイ・ビョンセク(QUEEN OF Jiu Jitsu)はアダルト黒帯ミディアムヘビーで決勝戦進出もジャガー・タン(CARPE DIEM MANILA)に敗れ準優勝に終わった。

Choi Byung-sek (Queen Of Jiu Jitsu), who competed from South Korea, advanced to the finals as an adult black belt medium-heavy, but lost to Jaguar Tan (CARPE DIEM MANILA) and finished in 2nd place.



日本からエリック・メネギンと共に出場したマイケ・オオウラ (IGLOO) が階級別に対戦相手不在でアダルト黒帯ライトで一人優勝。試合はオープンクラスの出場となった。

Myke Owura (IGLOO), who competed from Japan with Eric Meneghin, had no opponents in his weight class, so he won alone as an Adult Black Belt Light. His match was open class only.



アダルト茶帯のミドルとオープンクラスで全試合一本勝ちしてWゴールド獲得の平澤拓 (PATO STUDIO)。平澤は現在はフィリピン在住でアジアを中心に試合出場している。

Hiroshi Hirasawa (PATO STUDIO) won by sub all of his matches in the adult brown belt middle and open classes to earn W gold. Hirasawa currently resides in the Philippines and competes mainly in Asia.



アダルト茶帯ミドル決勝戦ではウィリー・アング (CARPE DIEM MANILA) から一本勝ちした平澤拓 (PATO STUDIO)。3位はケルビン・ガルシア (デフタックヒベイロ) が入賞。

Hiroshi Hirasawa (PATO STUDIO) won by sub from Willie Ang (CARPE DIEM MANILA) in the adult brown belt middle final. Third place went to Kervin Garcia (Deftac Ribeiro).



フィリップ・アレグレ (ルカスレプリ・フィリピン) とジェームス・ジャイム (コブリンヤ・マニラ) の顔合わせとなったアダルト茶帯ライトの決勝戦はフィリップが勝利して金メダル獲得。

In the adult brown belt light final was faced Philip Alegre (Lucas Lepri Philippines) and James Jayme (Cobrinya Manila), Philip won by sub and got gold medal.



マリアナスオープン主催者のスティーブ・シミズ氏も来場し大会を視察し、大きな盛り上がりで満足げな表情。今後もフィリピンで大会を継続開催していく意向を示している。

Steve Shimizu, organizer of the Marianas Open, was also in attendance to observe the tournament and seemed satisfied with the excitement. He has expressed his intention to continue holding tournaments in the Philippines.



フィリピン大会は現地のスタッフを中心に大会を運営している。レフェリーチームもフィリピン人のレフェリーで結成され試合を裁いていた。

The Philippine tournament is run mainly by local staff. The referee team was also formed by Filipino referees and refereed the matches.

ASIAN OPEN 2023

DATE: 2023年8月12日(土)~13日(日)

VENUE: 愛知県武道館

ASJJF はアジア全域で大会開催をしており、この大会はそういったアジア各国からの参加が多数あり国際色豊かな大会となった。来年はアジアオープンだけでなくアジアカップも開催予定だ。



アダルト黒帯ライト決勝戦はジェゴ・エンリケ(CARPE DIEM MITA)が1:46 トーホールドを極め、柴田宏太(Impacto BJJ)から一本勝ちして快勝。

ジェゴ・エンリケ、賞禄のアダルト黒帯Wゴールド達成 マスター黒帯のベテラン勢の奮闘ぶりにも注目だ



アダルト黒帯ライトを優勝したジェゴ・エンリケ(CARPE DIEM MITA)はそのままの勢いでオープンクラスも優勝。決勝戦はマテウス・ヒロトミ(Impacto BJJ)から7-0で勝利。



アダルト黒帯フェザーはアロワイス・スルタン(UAE Jiu Jitsu)とハッキネン・シウバ(カーストヨタBJJ)のワンマッチ決勝戦で9-2でアロワイスが優勝。



アダルト黒帯ミドルのワンマッチ決勝戦はアップセット。ASJJF主催大会で優勝経験多数のマテウス・ヒロミミ(Impacto BJJ)を岸本泰昭(Sisu MMA BJJ)がサドンドスで破る金星を挙げた。



最近の成長ぶりが目覚ましいチアゴ・トサワ(Impacto BJJ)がマスター1黒帯ノミドル & オープンクラスで優勝してWゴールド。常に大会に出ており試合経験を数多く積んでいる。



階級別では優勝ならなかったクレイトン・マノエル(Impacto BJJ)だったがマスター2黒帯オープンクラスでは決勝戦で市川公貴(トライフォース五反田)からトローホールドを極めて優勝。



ランジェル・ホドリゲス(RRT)とクレイトン・マノエル(Impacto BJJ)の実力派の日系ブラジリアン対決となったマスター2黒帯スーパーヘビー決勝戦はランジェルが4-2で接戦を制している。





マスター3黒帯オープンクラス決勝戦はヨースキ・スターと“トラオン”エヴェルトン・アサオのImpacto BJJコンビでクロスアウト。優勝がヨースキ、準優勝がトラオンとなった。



マスター3黒帯フェザー優勝は後藤貴史(ALMA FIGHT GYM HOMIES)決勝戦で辻大樹(パラエストラ岐阜)にパス&マウントから肩固めによるタップアウトし凛々しい表情で勝ち名乗り。

海外勢の参戦も多数で国際色豊かな顔合わせ満載

Over Limit BJJのアジア支部長が勢ぞろい



“バトル”ことカロス・キハラ(Impacto BJJ)はマスター4黒帯ライトフェザーのワンマッチ決勝戦でフィリピンから参戦のジェイソン・モンディゴ(Over Limit BJJフィリピン)に勝利して金メダル獲得。



マスター4黒帯フェザーのトーナメントを制したのは生田誠(トラスト柔術アカデミー)。決勝戦で山口晃弘(FUBUKI BJJ)に盤石の試合運びで勝利。



マスター4黒帯ライト決勝戦はホジェリオ・クリスト(EVOX BJJ)とチョ・スンミン(Over Limit BJJコリア)のブラジルvs韓国の国際戦。試合はホジェリオが絞めを極めて一本勝ちしている。



アジア各国にあるOVERLIMIT BJJの支部長が集結。左から中国代表のワンカイ、総代表のエジソン・カゴハラ、そして韓国代表のチョ・スンミン、フィリピン代表のジェイソン・モンディゴ。

アダルト茶帯オープンクラスは韓国勢が表彰台を独占 カザフスタンからの刺客は優勝ならず



アダルト茶帯オープンクラスは表彰台の選手全員が韓国人となった。韓国の柔術シーンの盛り上がりは特筆すべきものがある。優勝はユウ・ドンミン(Jiu Jitsu Land)で準優勝はイ・ジュンピ(ジョンフランクルJJ)、3位はアン・テウ(ジョンフランクルJJ)とハオ・ハラン(Jiu Jitsu Land)がメダルを獲得している。



20-2という大差をつけてアダルト茶帯ライトフェザー決勝戦を勝利した近藤卓也(タイショー-BJJ)が優勝。大会後には黒帯に昇格したが色帯での実績も充分で満を持しての昇帯となった。



カザフスタンから参戦のダイール・イズマイロフ(チェックマット・カザフスタン)はアダルト茶帯フェザー決勝戦まで勝ち進むも谷口雄基(パレストラ千葉)に敗れ準優勝。谷口は大会後に黒帯に昇格している。



ビクトル・ロドリゲスとレオナルド・マサトのRRTコンビでアダルト紫帯オープンクラスをクローズアウト。優勝はビクトル、準優勝はレオナルドでシェアした。



アダルト紫帯ライトフェザー決勝戦で喉を極めるゴゴブラックで一本勝ちして優勝のブルーノ・マツモト(INFIGHT JAPAN)はブラジルに帰国して大学進学。いつかまた日本の大会にも出て欲しい。



アダルト紫帯フェザー決勝戦は坂口魁暉(CARPE DIEM HOPE)とアーリー・カニヤツタ(Leos Jiu Jitsu Academy)の間で争われて坂口が勝利してアジア王者に。



アダルト紫帯ヘビー優勝はレオナルド・マサト(RRT)。1回戦は三角絞め、決勝戦は韓国のカン・ジング(シンチョンゴリラBJJ)から腕十字を極め、2試合連続の一本勝ちして金メダル獲得。

色帯はティーンエイジャーの台頭が顕著 バラ柔術&ノーギマッチも盛況だ



いま世界的に強豪として知られるようになったAOJのグスタボ・オガワの弟であるヴィニシウス・オガワ(小川柔術)がジュブナイル青帯ライトで全試合一本勝ちで優勝。



まだ緑帯ながらジュブナイル青帯オープンクラス&フェザーで優勝しWゴールド獲得した佐野カイラ(Axis)。ASJJFが採用するSJJIFルールではキッズカテゴリーの選手もジュブナイルやアダルトに出場できるのだ。



定期的にバラ柔術の試合も行っているASJJF。今大会に参加したのはこの3選手で、左から河野聖也(エストレーラ柔術ジム)、マルコス・モリ(ルーダスBJJジャパン)、八木稔尚(NRCDねわわ倶楽部)だ。



アダルト黒帯のノーギでWゴールドだったマテウス・ヒトドリ(Impacto BJJ)。ミドルは一人優勝、オープンクラスはウルトラヘビーのケネス・トーマス(Leos Jiu Jitsu academy)に勝利している。

ノーギのアダルト青帯オープンクラス優勝はカウエ・イノウエ(TREE BJJ)。決勝戦で台湾から出場したイ・ユアンシン(台湾BJJ)に勝利して優勝を果たす。ギではミドルで3位だった。



女子柔術家たちの華々しくも激しい試合は必見 才色兼備の選手たちは今後も要注目



今大会で唯一の女子アダルト茶帯の試合はミドル級のワンマッチ決勝戦、エイミー・キャンベル(アリアンシ・シドニー)とカオリ・イタクラ(Impacto BJJ)で、結果はエイミーがカオリを絞め落として勝利。



フィリピンから参戦のバカタン・プリンセス(Over Limit BJJフィリピン)が女子アダルト紫帯ライトフェザーで金メダル獲得。フィリピンではプロ柔術にも出場するほどの強豪選手だ。



女子アダルト紫帯ライト&オープンクラスで2度の対戦となった中山有加(Yawara)とアコム・カナシロ(ボンサイ)は中山が2連勝でWゴールド獲得。オープンクラスは12-0での勝利だった。



女子アダルト青帯のトップ選手の吉永愛(バラエストラ岐阜)はASJJF主催大会では無敗を誇る。今大会ではフェザー&オープンクラスで優勝しWゴールド、無敗記録を更新中。階級も無差別も決勝戦は腕十字で勝利。



女子アダルト青帯ライトフェザー決勝戦は東京から遠征した渡辺瑠里子(Axis)と地元・名古屋のゴン・ウー(ALMA FIGHT GYM HOMIES)の対戦で、渡辺が3-0で勝利。



女子アダルト青帯ルースターのワンマッチ決勝戦となったバトリシア・キド(Impacto BJJ)と高林倫(ボンサイ)はサドンデスに突入する接戦をバトリシアが制した。



昨年に引き続き、かつてMMAで活躍した石岡沙織(飛翔塾)がASJJFアジアに参戦。今大会ではマスター2青帯でライトフェザーとオープンクラスで優勝しWゴールド。



本来はティーンで橙帯のハファエラ・アユミ(INFIGHT JAPAN)は階級別では女子アダルト青帯ライトに出場。決勝戦で大木瑤子(NR Jiu Jitsu)から2-0で勝利して優勝を決めた。



今大会も対戦したニコリー・セキタニ(セキタニ柔術アカデミー)とハファエラ・アユミ(INFIGHT JAPAN)は女子ジュブナイル青帯オープンクラス決勝戦で対戦しニコリーが1:39 腕十字で一本勝ち。

キッズたちの成長ぶりが目覚ましく将来有望 ASJF 主催大会のレギュラーキッズも大活躍



ジュニアティーン黄帯ライトフェザー決勝戦は九州の城島可夢偉(メフォーゼ柔術アカデミー)と東京の春日唯都(CARPE DIEM MITA)の対戦で春日が一本勝ちし、全試合一本勝ちでトーナメント制覇。



着実に成長を感じさせる吉村千菜(X-TREME EBINA)が女子ジュニアティーン黄帯ライトフェザー決勝戦で雷田優菜(正道会館豊島道場)から逆転の腕十字を極めて優勝。



大阪の和田真琉(Team KIZUNA)と東京の佐藤樹生(CARPE DIEM AOYAMA)で争ったユース灰帯フェザー決勝戦は和田が勝利して激戦区のトーナメント覇者となった。



ティーン橙帯ルースター決勝戦は豊橋のミレーナ・ナガセ(EVOX BJJ)と東京の桑原結衣(トライフォース東中野)となり、ミレーナが勝利して優勝。大会後に緑帯に昇格している。



現在のキッズシーンで目立った活躍をしているクリスチャン・マツオ(カーロストヨタBJJ)。今大会ではティーン橙帯ライト決勝戦で尾崎裕二郎(徳島柔術)から絞めを極めて一本勝ちでアジア王者に輝く。



レティシア・ヒラノ(EVOX BJJ)はガードからの攻めが得意な選手で、今大会では女子ティーン黄帯ルースター決勝戦で三輪莉子(CARPE DIEM HOPE)を極めて一本勝ちで優勝、大会後に橙帯に昇格。



国内外の大会で活躍する岩澤新(CARPE DIEM MITA)がジュニアティーン黄帯フェザー決勝戦で永田怜(フレンズBJJ)から三角腕十字を極めて一本勝ちで優勝。



実力者対決となった高本哲至(高本道場)とエンゾ・イマザト(カーロストヨタBJJ)のティーン橙帯フェザー決勝戦はエンゾが三角絞めからのアームロックで一本決着で優勝となった。



柔術一家の高本ファミリーの末娘の高本珠緒(高本道場)。小柄だが数々のテクニックを駆使して大会で勝ちまくっている。今大会ではジュニアティーン黄帯フェザーで優勝し金メダル。

TOKYO OPEN 2023

DATE: 2023年9月9日(土)

VENUE: 墨田区総合体育館

海外からの参戦も多い ASJJF の大会だが、今大会にも海外勢の参戦があり国際色豊かな試合が多数組まれた。日本 & ブラジル、その他の国々の選手でインターナショナルマッチが続出している。

ブラジル人のチアゴ・トサワ(Impacto BJJ)と韓国人のチョイ・ビョンセク(Queen Of Jiu Jitsu)のブラジル vs 韓国のマスター1黒帯ミドルの決勝戦はチアゴが勝利。



チアゴ・トサワが韓国勢から勝利
スペイン在住の飯島も
凱旋試合でWゴールド獲得



今大会で唯一の女子紫帯マッチだったカロライン・マツモト(OVERLIMIT HONJO)とグレタ・ニシダ (AXIS YOKOHAMA) は日系ブラジリアン対決。試合はカロライン勝利で金メダル獲得。



マスター1茶帯でミディアムヘビーとオープンクラスで優勝した飯嶋貴幸(アテナBJJ)は純粋な日本人だが現在はスペイン在住で海外勢といってもいいだろう。スペイン帰国前の12月にARTにも参戦。



在日米兵のボビー・ヤマシタ(9Jitsu)と日系ブラジリアンのグスタボ・ツボネ(INFIGHT JAPAN)がアダルト紫帯のヘビーとオープンクラスで2連戦しグスタボが2連勝でWゴールドとなる。



アダルト青帯オープンクラス決勝戦、中島琉輝(Axis)とジオゴ・トクナガ(セキタニ柔術アカデミー)の日伯戦は中島が勝利してフェザーと合わせてWゴールドに輝く。



ジュブナイル青帯オープンクラスで優勝した高橋瑞希(Crowforest)の決勝戦の相手は台湾から参戦してきた選手で国際戦となったが、きっちり勝ち切ったのは流石。



本戦&サドンスを含め15分以上も試合をし続けた三輪利子(CARPE DIEM HOPE)と桑原結衣(トライフォース東中野)のティーン 橙帯ルースターのワンマッチ決勝戦は三輪が激戦を勝利も疲労困憊。

MARIANAS OPEN 2023

DATE: 2023年9月16日(土)

VENUE: カルポフィールドハウス

グアムで定期開催されている老舗大会の「マリアナスオープン」は ASJJF と提携し、グアムだけでなく日本・韓国・フィリピンなどで予選を開催し世界の強豪がグアムに集っている。

高額賞金の懸かったマリアナスオープンは グアムのみならず世界中から強豪が集結



賞金\$3000が懸かったアダルト黒帯オープンクラスの決勝戦はグラント・ボグダノフ(ALMA FIGHT GYM LIFE)とアンソニー・クルーズ(ハイツアカデミー)の3度目の対戦に。この試合もグラントが10-4で制してvsアンソニーで3連勝でオープンクラスも優勝、Wゴールドと賞金を手にした。

Adult Black Belt Open Class final with \$3000 in prize money on the line was the third matchup between Grant Bogdanov (ALMA FIGHT GYM LIFE) and Anthony Cruz (Heights Academy). Grant won this match as well by 10-4,



アダルト黒帯オープンクラス準決勝のマイケ・オオウラ(IGLOO)とアンソニー・クルーズ(ハイツアカデミー)の対戦は延長戦に突入するほどの接戦に。一度はマイケの勝利となるもビデオ判定で再戦となり、アンソニーがパスガードして勝利、決勝戦進出を果たした。

The Adult Black Belt Open Class semi-final between Myke Ohura (IGLOO) and Anthony Cruz (Heights Academy) was so close that it went into overtime. At one point, Myke won the match, but a video decision led to a rematch, in which Anthony won by pass guard and advanced to the finals.



アダルト黒帯オープンクラスの準決勝もアダルトvsマスターの対戦に。グラント・ボグダノフ(ALMA FIGHT GYM LIFE)とホジェリオ・クリストEVOX BJJ)の試合はグラントが一本勝ちもホジェリオは3位入賞を果たした。

The semifinals of the Adult Black Belt Open Class also pitted Adult vs. Master. Grant Bogdanov (ALMA FIGHT GYM LIFE) and Rogério Cristo (EVOX BJJ), with Grant winning by Submission but Rogelio got 3rd place.



賞金トーナメントはアダルトのみなので普段はマスターカテゴリーの選手もアダルトのトーナメントに参戦。2回戦でマイク・オオウラ (IGLOO) とヨースキ・ストー (Impacto BJJ) が初対決し、12-2でマイクが勝利。

Resulting in a series of rare matchups in the second round, Myke Ohura (IGLOO) and Yoski Suto (Impacto BJJ) met for the first time, with Myke winning by 12-2.



女子アダルト黒帯オープンクラスも男子と同じ賞金\$3000でフェルナンダ・クリスト (EVOX BJJ) が優勝。1回戦は絞め、決勝戦は腕十字を極めて2試合連続の一本勝ちで圧勝した。

Fernanda Cristo (EVOX BJJ) won the female adult black belt open class with the same \$3000 prize money as the male's, winning by a choke in the first match and armbar in the final for two subs wins.



階級別は対戦相手が棄権して一人優勝の平澤拓 (PATO STUDIO) はアダルト茶帯オープンクラス準決勝でトミー・ヤノ (IGLOO) に敗れ3位入賞に終わった。

In the weight division, the lone winner, Hiroshi Hirasawa (PATO STUDIO), lost to Thomy Yano (IGLOO) in the Adult Brown Belt Open Class semi finals, finishing in third place, after his opponent had to abandon the tournament.



トミー・ヤノ (IGLOO) はアダルト茶帯フェザー決勝戦に続き、オープンクラス決勝戦でも斉藤晶 (INFIGHT JAPAN) との対戦になり、ここでも危なげなく4-2で勝利してWゴールド & 賞金\$2000を獲得。

Thomy Yano (IGLOO) followed up his Adult Brown Belt Feather Final match with an Open Class Final match against Sho Saito (INFIGHT JAPAN), and again he had no trouble winning 4-2 to take the W Gold and \$2000 in prize money.



アダルト紫帯でWゴールド獲得の岡明大 (PATO STUDIO) はミディアムヘビーとオープンクラスでマイケル・シノハラ (ATOSグアム) に2連勝して金メダル2つと賞金\$1000を手にした。

Adult purple belt W gold winner Akihiro Oka (PATO STUDIO) won two straight against Michael Sinohara (ATOS Guam) in the medium heavy and open classes to take home two gold medals and \$1000 in prize money.



ハファエラ・アユミ (INFIGHT JAPAN) がアダルト青帯オープンクラスでも優勝してWゴールド & 賞金\$500を獲得。まだ中学生で橙帯のアユミだが初の海外大会、そしてアダルト青帯でこの結果は特筆に値する。

Rafaela Ayumi (INFIGHT JAPAN) also won the Adult Blue Belt Open Class, earning a W Gold and \$500. Ayumi is still a junior high school student and an orange belt, but this was her first overseas tournament and this result for worthy of special mention.



ヘナータ・ハルミ (INFIGHT JAPAN) は階級別は一人優勝で無差別のみの参戦。1回戦を勝ち上がったが決勝戦でフランチェスカ・リザマ (PUREBREDグアム) に腕十字を極めてられて一本負けで賞金獲得ならず。

Renata Harumi (INFIGHT JAPAN) was the lone winner in her weight division, competing only in the open class. She won her first match but was pinned by Francesca Lizama (PUREBRED Guam) in the final match with losing by an armbar and can't get gold and prize money.



グラントとアンソニーの 日本 vs グアムの頂上決戦 日本とグアムで通算3度 行われグラント全勝で終結

日本でも激戦を繰り返していたグラント・ボグダノフ (ALMA FIGHT GYM LIFE) とアンソニー・クルーズ (ハイツアカデミー) がアダルト黒帯ヘビー決勝戦で再び激突もグラントが返り討ちで2連勝。

Grant Bogdanov (ALMA FIGHT GYM LIFE) and Anthony Cruz (Heights Academy), who had fought hard in Japan, clashed again in the Adult Black Belt Heavy Final, but Grant came back to win for the second straight time.



エリック・メネギン (IGLOO) はアダルト黒帯フェザーで2試合を極めて優勝。決勝戦はフィリピンから参戦のEFセヴィーリャ (チェックマットフィリピン) から腕十字を極めている。

Eric Meneghin (IGLOO) won the Adult Black Belt Feather with two fights. In the finals, he scored a Armbar from EF Sevilla (Checkmat Philippines), who was competing from the Philippines.



メダル獲得の3選手ともグアムの選手たちとなったアダルト黒帯ミディアムヘビーはJJアンブローズ (マチャドグアム) が優勝で準優勝はジョン・メノ (ATOSグアム)。3位はフランク・カマチョ (PUREBREDグアム)。

JJ Ambrose (Machado Guam) was the winner of the Adult Black Belt Medium Heavy, with John Meno (ATOS Guam) as 2nd and Frank Camacho (PUREBRED Guam) in 3rd place.



アダルト茶帯ライトフェザーはケネス・レデスマ (ATOSグアム) とフランシスコ・バルザガ (チェックマットフィリピン) のグアム vs フィリピンの国際戦。結果はグアムのケネスが勝利。

Adult brown belt light feather was an international Guam vs. Philippines match between Kenneth Ledesma (ATOS Guam) and Francisco Barzaga (Checkmat Philippines). The result was a win for Kenneth from Guam.



強さが際立っていたトミー・ヤノ (IGLOO) はアダルト茶帯フェザー決勝戦で斉藤晶 (INFIGHT JAPAN) から三角絞めを極めて一本勝ちで優勝。

Thomy Yano (IGLOO), whose strength was outstanding, won the Adult Brown Belt Feather final with a triangle choke from Sho Saito (INFIGHT JAPAN) by tapout.



フィリピン大会を勝ちぬいて本戦出場のフィリップ・アレグレ(ルーカスレプリ・フィリピン)は極めの強さが印象的。決勝戦はカイル・パロマ(カーウソングレイシー・グアム)からタリコプラダで一本勝ち。

Philip Alegre (Lucas Lepri Philippines), a winner of the Philippine tournament and a participant in this tournament, impressed with his strength in the pole position. In the final match, he won by a talicoplasta from Kyle Paloma (Carson Gracie Guam).



今大会にはスタッフとして参加のアレクサンドレ・アツシ(Impacto BJJ)も急速試合出場。アダルト茶帯スーパーヘビーは準優勝もマスター1茶帯オープンクラスでは金メダル獲得。

Alexandre Atsushi (Impacto BJJ), who joined in this tournament as a staff, also competed in the tournament on short notice. He was silver in the Adult Brown Belt Super Heavy, but won the gold medal in the Master 1 Brown Belt Open class.

マリアナスプロジャパンで優勝してトラベルパックを 獲得した選手たちがグアムでも優勝して賞金獲得



ともに日本から参戦した選手同士のマスター3黒帯ミディアムヘビー決勝戦はヨースキ・ストー (Impacto BJJ) が田端祐介(パラエストラ守谷)を瞬殺。

In the Master 3 black belt medium heavy final between two competitors from Japan, Yosuki Suto (Impacto BJJ) instantly killed Yusuke Tabata (Palaestra Moriya).



マスター3黒帯ライト優勝はホジェリオ・クリスト (EVOX BJJ)。決勝戦で韓国のミン・ウクを、1回戦でグアムのウィルフレッド・サリナスから勝利している。

Master 3 Black Belt Light winner was Rogério Cristo (EVOX BJJ). He defeated Park Min Uk of Korea in the finals and Wilfred Salinas of Guam in the first round.



女子アダルト青帯ライト決勝戦はハファエラ・アユミ(INFIGHT JAPAN)とメリッサ・メノ (ATOSグアム)の顔合わせでハファが12-0という大差の判定勝ち。

The women's adult blue belt light final was a meeting between Rafaela Ayumi (INFIGHT JAPAN) and Melissa Meno (ATOS Guam), with Rafa winning by a 12-0 decision.



ジュニアティーン橙帯ライトで優勝した岩澤新 (CARPE DIEM MITA) は日本の大会でも敵なし状態のキッズのトップ選手。グアムの大会でも圧勝していた。

Arata Iwasawa (CARPE DIEM MITA) is winner of the Junior Teen Orange Belt Light category. Arata is a top kid's competitor who is unbeatable in Japanese tournaments, he also won the tournament in Guam.



高松一喜 (CARPE DIEM MITA) はジュニアティーン橙帯ミドルで優勝し、キッズ育成に定評があるCARPE DIEM MITAの指導手腕の見事さを裏付けている。

Kazuki Takamatsu (CARPE DIEM MITA) won the Junior Teen Orange Belt Middle, confirming the excellent coaching skills of CARPE DIEM MITA, which has a reputation for training kids.



チーム優勝はATOSグアムで、アダルト、マスター、キッズで3冠を達成した。大会参加者も多くメダル獲得者も多数でこのチーム優勝も納得の結果だろう。

The team winner was ATOS Guam, which won the triple crown in the Adult, Master, and Kids categories. With the large number of competitors and medal winners in the tournament, this team win was a convincing result.

DUMAU INTERNATIONAL 2023

DATE: 2023年9月30日(土)、10月1日(日)

VENUE: 青山記念武道館

ASJJFの前身であるドゥマウ時代から継続開催されている今大会は次回で20回目の開催を迎えるアニバーサリーイベントとなる。記念イベントは大々的に行う予定なので楽しみにしたい。



今大会で目覚ましい活躍をしていたシャビエル・シウバ(EVOX BJJ)はアメリカ・サンディエゴからの参戦。アダルト黒帯のスーパーヘビーとオープンクラスの決勝戦でレアンドロ・クサノ(クサノチーム)と2連戦を行い2連勝でWゴールド。敗れたクサノも若いシャビエル相手に大健闘していた特筆しておきたい。

サンディエゴから参戦のシャビエル・シウバがアダルト黒帯Wゴールド 敗れたクサノもチームメンバーの大声援で大奮闘



今大会で黒帯デビューとなった近藤卓也(TAISHO GYM)は色帯時代から数多くの大会で戦績を残しており満を持しての黒帯昇格だっただけに黒帯初戦も危なげなく勝利して黒帯初優勝を飾る。



大阪から参戦の木村謙太(トライフォース大阪)がアダルト茶帯ライトフェザーのワンマッチ決勝戦でオスカー・ナナダカリ(カーロストヨタBJJ)からキムラで一本勝ちして優勝を決めた。



アダルト茶帯ミドルのワンマッチ決勝戦は田中凌太(CARPE DIEM HOPE)とクリス・イレイモン(EVOX BJJ)の初顔合わせ。試合はクリスのガードからの仕掛けを田中が制して勝利した。



アダルト紫帯Wゴールドはルアン・マルクス(TREE BJJ)。ルアンはATOSで柔術修行中だが日本に帰国している間は国内大会にも参戦し好成績を残している。今大会ではミドル&オープンで優勝。



ブラジル修行を終えて帰国後も数多くの大会で活躍する井田黎(Ultimate Jiu Jitsu Club)がアダルト紫帯フェザーで優勝。決勝戦は絞めを極めて一本勝ち。



国内の重量級のトップ選手の1人であるランジェル・ロドリゲス(RRT)がマスター2黒帯でWゴールド。スーパーヘビー&オープングラスとも決勝戦を一本勝ちで極めている。

女子アダルト青帯ヘビーの松野保奈朱(EVOX BJJ)とミカエラ・マキヤマ(TREE BJJ)のワンマッチ決勝戦は松野がパス&マウントからアメリカナを極めて一本勝ちで制した。



ASJJF審判部のトップでありながら試合にも出続けているヨースキ・ストー (Impacto BJJ)。マスター3黒帯でミディアムヘビー&オープンホドリゴ・ソウザとクローズアウトした。



根津柚花(トラスト柔術アカデミー)と松本絆花(EVOX BJJ)はライバル関係にある。今大会ではキンダガートン灰帯フェザーのワンマッチ決勝戦で松本が勝利。



緑帯はキッズカテゴリーの最高位の帯。ティーン緑帯ヘビーで優勝した佐藤勇心(SENDAI柔術アカデミー)は柔道ベースの力強い寝技を見せて金メダル獲得。



ティーン緑帯ライトのワンマッチ決勝戦で対戦した渡邊英臣(小川柔術)とマイク・オシロ(カーロストヨタBJJ)はトップポジションをキープした渡邊が勝利して優勝。

ART PHILIPPINE.2

DATE:2023年10月22日(日)

VENUE:Robinson's Galleria Cebu

2度目の開催となったフィリピン版のプロ柔術「ART」はフィリピン・日本・韓国の選手たちが出場して華々しく開催された。来シーズンはその他の地域でも開催が予定されている。

高本親子が揃って勝利 フィリピンの有名俳優も出場して大歓声



大会メインは高本裕和(高本道場)がポール・フアレス(ATOS PHILIPPINES)相手に得意技のカーフスライサーを極めて一本勝ち。

In the main event, Hirokazu Takamoto (TAKAMOTO DOJO) won by sub with his signature calf slicer against Paul Juarez (ATOS PHILIPPINES).



高本裕和の末娘、珠緒はオープニングマッチに出場。初めての海外試合で絞めを極めて一本勝ちした。

Tamao, the youngest daughter of Hirokazu Takamoto, competed in the opening match. She won by sub through stranglehold in her first overseas match.



ARTフィリピン2で親子揃って勝利した高本裕和 & 珠緒。次回大会も日本から選手を派遣して開催予定だ。

Hirokazu Takamoto & Tamao won ART Philippines 2 with their father and daughter together. The next event is also to be held with competitor sent from Japan.



セミはフィリピン在住の平澤紘(PATO STUDIO)が韓国から参戦のイ・ジュンヒ(JOHN FRANKL DUNGEON)に勝利、日韓戦を制した。In the semi, Philippine resident Hiroshi Hirasawa (PATO STUDIO) won the Japan vs Korea match with won by points Lee Junhui (JOHN FRANKL DUNGEON) from Korea.



フィリピンで有名俳優というイヴァン・グリメス(カンフィウス・ファブリシオ)も出場し大歓声。試合は韓国人のムン・ボンジン(GROUND CORE)から絞めを極めて一本勝ち。

Ivan Grimes (Kamphius Fabricio), a famous Filipino actor, also competed in event and was greeted with loud cheers. In the match, he won by choke from Korean Bong Jin Mun (GROUND CORE KOREA).



ノーギマッチは2試合が行われている。フィリピンでも少しずつノーギの人気の上がってきた。

Two NO-GI matches have been held. No-Gi is gradually becoming more popular in the Philippines too.



オープニングマッチはキッズマッチが3試合。どの子も元気に試合をして大会を盛り上げている。

The opening matches were three kids' matches. All kids are energetically playing their matches and making the tournament more exciting.



今大会はオープニングマッチを含め全16試合をラインナップ。開会式も行われた。

A total of 16 matches, including the opening match. The opening ceremony was also held.



フィリピンのARTはショッピングモール内の特設会場で行われており、一般観覧も可能だ。

ART Philippines is held at venue in a shopping mall and is open to public viewing.

KITA KANTO OPEN 2023

DATE:2023年10月29日(日)

VENUE:いずみ総合公園町民体育館

今大会が初開催だった北関東大会。大泉町の町長も視察に訪れ、来シーズンは春と秋の年2回の定期開催が予定されている。会場の外には出店もあり、お祭りのような盛り上がりとなった。

**初開催の KITA KANTO OPEN は町長の来訪もあり大成功
今後の継続開催も決定し、来シーズンは年2回を定期開催予定**



斉藤 焜(INFIGHT JAPAN)と萩原大揮(リラクシンBJJ)がアダルト茶帯のフェザーとオープンクラスで決勝戦2連戦。結果は斉藤が僅差の試合をモノにして2つの金メダルを手中に収めている。



群馬の伊勢崎でジムを持つクレイトン・マノエル(Impacto BJJ)とはるばるガムから参戦してきたリチャード・エンリケ(PUREBREDガム)のマスター2黒帯オープンクラス決勝戦は絞めでクレイトン勝利。



ともの50歳超えの黒帯同士であるデニス・ヨシダ(INFIGHT JAPAN)と樋口 弘信(GONG GYM 坂戸)がマスター5黒帯オープンクラスのワンマッチ決勝戦で対戦し、デニスがサドンデスで激戦を制す。



東京から遠征して出場の上遠野玄宗(CARPE DIEM)がアダルト紫帯フェザーで2試合を勝ち抜いて優勝。対戦相手は2人とも日系ブラジリアンであった。



アダルト紫帯のライトとオープングラスの決勝戦は同じ顔合わせに。熊田堅信(SENDAI柔術アカデミー)がフランス人のアルトゥール・ドゥモンソー(ALMA FIGHT GYM LIFE)に2連勝してWゴールド。



ジュブナイル青帯オープングラスはダムファイトジャパンのエイトル・アマリンとマテウス・タロウマルがクロスアウト。この2人は階級別でもそれぞれ優勝している。



両親とも黒帯という柔術一家出身の杉内志生(ボゴナ・クラブジム)は2試合とも一本勝ちしてユース灰帯ライトフェザーで優勝。極めの強さは親譲りだ。



会場の外にはいろいろな出店があり賑わっていた。ブラジリアンフードやアサイー、ブラジル雑貨などが売られ、この出店を目当てに訪れる人も多かった。

「柔術を通じて町民の健康づくりや多文化共生を」と町長が協力を約束

今大会には群馬県邑楽郡の大泉町長である村山俊明町長が来場し挨拶。「柔術を通じて町民の健康づくりや多文化共生をさらに進めていきたい。そしてブラジル人と日本人の交流をもっと深めたい」と話した。ASJJF会長のエ

ジソン・カゴハラとがっちり握手し、今後の協力体制の確立を約束。表彰台ではメダルのプレゼンターを務め、柔術にも興味津々の様子だった。また新聞にも大会のことが掲載されて大々的に告知されていた。



KANTO OPEN 2023

DATE:2023年8月19日(土)

VENUE:墨田区総合体育館

土曜日開催に関わらず多数の選手が集まった今大会。首都圏の柔術人口の増加は目を見張るものがあり、大会の参加申し込みも早期締め切りになることも珍しくない。



元 RIZIN ガール・あきびこと 阿部真奈美が ノーギマッチデビューで 優勝の快挙



元RIZINガールのあきびこと阿部真奈美(ABLAZE八王子)がノーギに初挑戦。アダルト白帯ライトフェザーで優勝し、慣れないノーギでも戦績を残した。



「これからトップ選手を目指す」と戦線復帰を宣言したマルコス・ナカムラ(Impacto BJJ)がマスター3黒帯フェザーのワンマッチ決勝戦で勝利。今後の活躍にも期待だ。



マスター世代の女子も多数大会出場している。マスター3青帯ライトフェザーは大木明子(T RIBE TOKYO MMA)と上野啓子(パラエストラ千葉)の一騎打ちで大木が勝利で優勝。



女子アダルト青帯の強豪である吉永愛(パラエストラ岐阜)はフェザーのワンマッチ決勝戦で横瀬友愛(BELVA)から腕十字を極めて一本勝ちして金メダル獲得。



ASJFの審判部長のヨースキ・ストー (Impacto BJJ)だが試合でも現役バリバリ。今大会ではマスター1黒帯ミディアムヘビーでフェルナンド・マツキ(MKファイト)に勝利。



元INFIIGHT JAPANで現在は長野県にある飛翔塾に所属するウイリアン・サイオがアダルト紫帯オープンクラスで優勝。大会後に茶帯昇格している。



今大会でギ&ノーギでそれぞれ優勝してWゴールド、合計4つのクアドラブル・ゴールドを獲得した後藤大(INFIIGHT JAPAN)。大会後に満を持して紫帯に昇格をした。

SOUTH JAPAN 2023

DATE:2023年8月27(日)
VENUE:基山町総合体育館

九州大会は佐賀県基山市での開催となっており、ASJFFの重要な拠点大会の1つとして定着している。九州地区で最大規模を誇る大会がこのSOUTH JAPANはなのだ。

独自路線で発展を続ける九州大会 チームポイント争いも熾烈を極める



チームポイントはマスターとキッズでTAT ORUが2冠を達成。アダルトはCARPE DIEM KURUMEが優勝し、九州での覇権争いに一矢報いている。



九州地区を代表するキッズの1人であった脇元凛音(T-REX柔術アカデミー)は今大会はアダルト青帯ルースターで参戦。ギズでは3位、ノーギズでは準優勝という結果を残した。



九州大会にレギュラー参戦している西本健治(メフォーゼ柔術アカデミー)はマスター3黒帯スーパーヘビーで優勝&オープングラスで準優勝。どちらもワンマッチ決勝戦だった。

Team Point	Adult	1.CARPE DIEM KURUME 2.9JITSU 3.G-FORCE
	Kids	1.TATORU 2.メフォーゼ柔術アカデミー 3.CARPE DIEM KURUME
	Master	1.TATORU 2.CARPE DIEM FUKUOKA 3.パラエストラ北九州

WEST JAPAN OPEN 2023

DATE:2023年11月3日(祝)
VENUE:武道館ひびき

夏のWEST JAPAN、秋のWEST JAPAN OPENと季節ごとに開催された関西大会は大阪を中心とした選手を中心に好勝負が続出して素晴らしい盛り上がりだ。

関西大会・秋の陣は マスター勢も多数参戦



マスター5は51歳以上の年齢カテゴリーだが、高齢になっても試合できるのが柔術の大きな魅力だ。マスター5黒帯オープングラスは中村昭仁(ボアソルチ)が激戦を制して優勝。



ホドリゴ・ソウザ(Impacto BJJ)と酒井隆司(パラエストラ東大阪)のマスター3黒帯オープングラスのワンマッチ決勝戦はホドリゴが勝利したが酒井の健闘も光った。



キッズカテゴリーでは男子と女子の試合も組まれる場合がある。ジュニアティーン黄帯ライト決勝戦の小林叶和(CARPE DIEM ASHIYA)と高本珠緒(高本道場)の男女マッチは小林が勝利して優勝。

Team Point	Adult	1.カーロストヨタBJJ 2.生野JJ 3.トリスゲリオンBJJ
	Kids	1.カーロストヨタBJJ 2.CARPE DIEM ASHIYA 3.Impacto BJJ
	Master	1.Impacto BJJ 2.カーロストヨタBJJ 3.SCORPION GYM



INTERVIEW

アジアオープン柔術チャンピオンシップ優勝・ART.5出場

生田 誠

アジアオープン柔術チャンピオンシップを制し王者となった生田誠。
最近の試合で続いた「不完全燃焼」を晴らしての優勝だった。
12月には「ART.5」の出場が待つ。いま生田が見据える柔術と戦いを聞いた。

「勝ち負けを意識するより 自分が納得する形で戦いたい」

——8月のアジアオープン柔術
チャンピオンシップ優勝おめで
とうございます。改めて振り返っ
ていかがですか。

やっとな普通に戦えたなってい
う感じです。7月のIBJJFアジ
アが1回戦負けで、先にポイント
を取られて勝負に来てくれな
かった感じですが、不完全燃焼
だったんです。それで悔しいの
もあったのでエントリーしました。
基本的にASJJFの大会は全部
エントリーしているんですけど。

——最近はまだ積極的に試合
出場されていますね。

昔から競技に関して思ってい
たことなんですけど、ポイント
を取って勝負しない、みたいな
のは嫌だったんです。勝ち負けよ
りも勝負する、自分の戦いをした
いと思っています。

——試合に対する基本姿勢と
してそういった思いがあると。

少し前に今成(正和)さんが
「チャンピオンとかには興味な
い」って言っていたんです。今
成さんも足関節に特化された
方なので足関節のアタックに
行って相手にそれを嫌がって
逃げる攻防をされると勝てな
いんですけど、なんか僕もそこにす
ごく共感して。(自分の場合は)
ガードが強いて言われている
ので、ガードの形になった時に
攻めたフリをしながら安全第一

で勝負を仕掛けてこないで、そ
れで反則が出る直前にちょっと
動く、そういう戦い方をしてく
る人がいて。そういう戦い方を戦
略と位置づけて、そういう価値
観でやってらっしゃる方もいま
す。これは個人的な考えなので
嫌に思う人もいるかもしれない
ですけど、でも僕は“逃げてるん
じゃないか”と感じてしまうん
です。それだったら今成さんみた
いに、自分が勝つために自分が
できる最善を尽くして、得意な
ところで勝負する、勝ち負けを
意識するより自分が納得する形
で戦うことをやりたいんです。

——8月のアジア大会ではそう
いう戦いができた。

はい、勝負をしに来てくれた
のでできました。勝負してくれ
たので試合が終わった後で自
分の中でもスッキリしたし、その
結果たまたま優勝しただけです。
以前JBJJFの全日本マスター
オープンで小川柔術の(アレ
クサンドリ・)オガワ先生と試合
をした時、小川柔術は常に攻め
て戦いを挑んで、多少のポイン
トやアドバンテージも気にしな
い、最後まで狙いに来るスタ
イルだからすごく噛み合ったん
です。どっちが勝ってもおかし
くない試合でしたけどたまたま勝
てて、終わった後でオガワ先生
に対して、“勝負に来てくれてあ

りがとうございます”じゃないけ
ど、相手を思いやる気持ちがす
ごく大きくなりました。クインテ
ットもそうで、勝負しないで攻め
てるフリをしていると、両方に指導
が入ります。両方も常に一本
を目指して戦わないといけない
状況を作ってくれるので寝技の
面白い部分を堪能できるん
です。アマチュア・クインテット
では結果それで優勝できて(18年9
月)、すごく楽しかったなってい
う印象しかありません。

——クインテットはお互い攻め
なければ失格になるルールで、
生田選手が理想とされる戦い
と重なるところがあるのかもしれ
ません。

やってる方もハラハラするし
面白くなりますよね。見ていても
気持ちがよくて、心を打たれると
いうか。“どんなことをしても勝
てば評価される”みたいなのは僕
は尊くないと感じてしまうん
です。例えばドーピングをして自分
が勝ちやすい状況を作ってしまう
のも、本当に心が強い人であ
ればそういうものに頼らず自分
の体一つで勝負して戦おうと思
います。そういうものに飲み
込まれてしまった人・ユーザー
に対して、ナチュラルで体一つ
で勝負するっていうところに美
しさや尊さを感じるので、必ず
しも勝ってる人がスゴいとは僕



はあまり思いません。勝つことでファイトマネーが上がったり、そういうビジネスの側面があるから、どんな手段をしても勝てばいいという思想になるのも分かりますんですけど、そういう人や勝負せずに世界チャンピオンになった人を称えることはできません。だから今は勝ち負けとかチャンピオンに興味があるんじゃないく、今の自分までできるか。若くて練習量も積んで、勝っていた時は楽しかったしタイトルを獲得することにごくこだわったりもありましたけど、今は自分のできる範囲で自分のやってきたことをどう表現するか、どう表すかみたいなことに気持ちが行っています。

——これまでとは違う方向に気持ちが向いていると。

一番最初に出たコンバット柔術は相手選手もすごくガツガツ来てくれて別でしたけど、最近是不完全燃焼の試合が続いて、終わった後で大体モヤモヤしている部分があって。今後も相手

がそういう戦略を取って戦ってくる可能性もあるから、偶発的にポイントを取られて負ける可能性もあります。でも、それがイコール強さの証明ではないと思っているので、自分ができる最大限を出せばいいかなって。その上で、どういう道を辿ったとしても最終的に一本取ったら勝ちなので、サブミットすることをゴールにして戦っていったらいいかと思います。

——デラヒーバジャパン山梨の市橋虎徹選手と対戦するART.5についてもお願いします。

実はちょっとご縁があって、たまに一緒に練習してらんです。ずっと応援していた方で、僕より

年下なんですけど、前回大会も階級と無差別で優勝されて、デラヒーバ先生に認められて黒帯になりました。強い方なのは分かっていますし、性格的にすごくアグレッシブな方なので、勝負できるかなという期待はあります。仲がいいので、今はスイッチを切り替えて準備している感じです。サブミッション、一本を取りたいです。

——それでは最後に改めてARTを楽しみにする方たちへメッセージをお願いします。

みんな結果を先に求めてしまっ、努力した過程や試合の内容にあまりこだわらないところがあると思います。でも、僕は勝ち負けよりもその部分を意識してやりたいと思っています。ブラジリアン柔術はいろんな戦略・戦い方・技があって面白いものなので、“こういうのもあるんですよ”というのを見て頂きたいし、感じ取ってほしいです。それをみんなに分かってもらうためにも中途半端な戦い方をしたら“偉そうなことを言ってたけど結局一緒じゃん”と言われてしまうので、全力を尽くして最後まで諦めず頑張りたいです。

INFORMATION

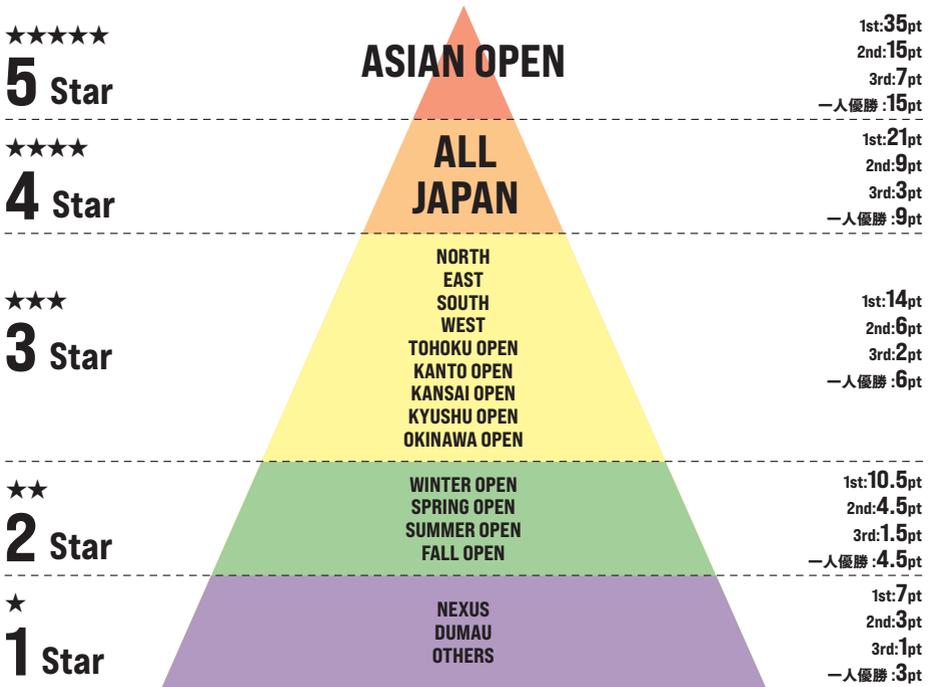
生田選手が出場する「ART.5」は12月17日(日)に東京都代々木のミューズ音楽院ホールで開催。チケットの購入や配信情報はASJJFのHP、各種SNSをご覧ください。



JAPAN RANKING 2023

ASJJF ではポイント制による年間ランキングを設けており、成績優秀者には表彰や翌年度の大会の出場費免除などの特典が与えられます。

大会のグレードと獲得ポイント数



A SJJFならびにSJJJFが主催、または提携する大会にはランキングポイントが定められており、入賞者には大会の格付けに応じたポイントが与えられます(上図参照)。ポイントは一年を通じ、獲得するごとに積み重ねられ、ポイント

数によるランキングが制定されます。ランキングは各カテゴリで設けられ(帯別、性別、年齢別)、成績優秀者^{*1}には表彰、さらに各カテゴリのランキング1位の選手には、2024年に日本国内で開催されるASJJF、SJJJF主催大会への参加費用

が免除される特典^{*2}もありますので、皆様には奮って大会へご参加いただきたいと思います。

なお、2023年度のランキングは2023年1月以降開催される大会から対象となりますので、お間違えのないよう詳細はASJJFのHPでご確認ください。

^{*1}: 各カテゴリには最低獲得ポイントが定められており、これを超えた選手のみの適用となります。

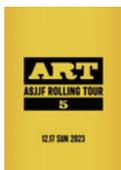
^{*2}: 100ポイント以上を獲得したランキング1位の選手が対象。

ASJJF Upcoming Events 2023-2024 December-March

ASJJF では今後も多くのイベントを予定しております。
詳しくは ASJJF または SJJJF の HP をご参照ください。



Art Challenge 4
東京都
ミュージックホール
12月17日(日)



Art 5
東京都
ミュージックホール
12月17日(日)



Nagoya International Open Jiu Jitsu Championship 2023
愛知県
愛知県武道館
12月23日(土)



Nagoya International Open No-gi Championship 2023
愛知県
愛知県武道館
12月23日(土)



Tokyo International Spring Jiu Jitsu Championship 2024
東京都
Genスポーツパレス
2月10日(土)、11日(日)



Tokyo International Spring No-gi Championship 2024
東京都
Genスポーツパレス
2月11日(日)



Kansai International No-gi Championship 2024
大阪府
吹田市立武道館
2月11日(日)



Kansai International Jiu Jitsu Championship 2024
大阪府
吹田市立武道館
2月11日(日)



2024 Marianas Pro Japan (gi Only)
愛知県
愛知県武道館
3月9日(土)



Asia Jiu Jitsu Cup 2024
愛知県
愛知県武道館
3月10日(日)



Asia No-gi Cup 2024
愛知県
愛知県武道館
3月10日(日)



Asia Para Jiu Jitsu Cup 2024
愛知県
愛知県武道館
3月10日(日)



Shikoku Open Jiu Jitsu Championship 2024
徳島県
ソイジョイ武道館
3月17日(日)



Shikoku Open No-gi Championship 2024
徳島県
ソイジョイ武道館
3月17日(日)



SJJJF
the 2nd reversal jiu jitsu cup in fukuoka
福岡県
春日市総合スポーツセンター
2月11日(日)



ASJJF の
ホームページは
こちらから



SJJJF の
ホームページは
こちらから



DUMAU

www.dumauasia.com



JIU JITSU TODAY

【発行】



Asian Sport Jiu-jitsu Federation